



高等学校

外国語

全学年

ピア・リーディングを活用した読解方略指導



明示的な読解方略指導を行うことによって、生徒に読解方略を意識付けることが可能になります。さらに、ピア・リーディングを活用して、読解方略の定着を促すことができます。

読解方略とは？

文章をよりスムーズに理解し、効率よく読み進めるために、学習者が意識的に使う工夫や方法のことを指します。読解方略指導を行うことによって、はじめての文章を読む際に、概要や要点を掴むことを容易にすることが可能になります。

読解方略の例

未知語の推測、指示語の理解、

ディスコースマーカー(because, however, for exampleなど)の活用 など

明示的な読解方略指導の例 未知語の推測

①教科書本文を読む前

例文などを用いて生徒に読解方略の使用方法を説明、演習を実践します。

次の□にはどのような言葉が入る？

桃太郎は鬼を倒しに鬼ヶ島へ向かいました。彼には仲間がいました。仲間は猿、犬、□です。

文脈や自分の背景知識を活用してみよう！

猿、犬…キジだ！



②教科書本文を読む際

本文の文脈や背景知識を用いて推測できる単語については、本文を読む際に生徒に推測させる機会を設け、文脈を意識したり、背景知識を活用したりする力を育成します。



知らない単語だけど…前の文にこんな内容があって、その後butって続いているから、こんな意味かな…？

ピア・リーディングとは？

ピア・リーディングとは、学習者同士で読んだ内容や読み方について話し合い、読解の過程を共有する活動のことです。ピア・リーディングは、学習者同士で意見交換する機会を設け、自分の分かっていなかったことに気付くことを可能にします。

活動の手順

1. 一人で読む時間



一人で読み、問い合わせなどを考え、自分なりの理解や考えを形成する。

2. 学習者同士で読む時間



話合いを行いながら、読み違いの修正を行い、また、読む際にとった方略などを吟味する。

3. 振り返り



授業を通してできるようになったことや次回やってみたいことなどを振り返る。

活動のポイント

1. 問いの工夫 推論発問

事実発問だけでなく、推論発問を設定することで、文章全体を読みとることができ、さらに、ピア・リーディングを通して自分とは異なる意見や読み方を知る機会につなげることが可能になります。

2. ピア・リーディングで話すこと

「何が分かったか」ではなく「どのようにして分かったか」

ピア・リーディングを行う際は

①自分の回答②なぜそう思ったのか③本文のどこに根拠があるのか

を共有することで、お互いの考え方や読み方を知ることが可能になります。

3. 振り返りの工夫 チェックシートの活用

振り返りの際には、自分自身が取った読みとピア・リーディングを通して理解できるようになった読解方略をチェックするシートを用いることで、自分の読みを客観的に認識することが可能になります

チェックシート例

生徒の感想



一人では分からなかったけど、話して合って「なるほど」が沢山出てきてよかったです。

長文読解が苦手だから、この授業スタイルのおかげで前より解きやすくなりました。

Strategies	
1 読み始める前に、見出しからあらかじめ推測する	<input type="radio"/>
2 文章全体の大意をざっと掴んだ上で、次に細かく読む	
3 代名詞は何を指しているか意識する	<input checked="" type="checkbox"/>
4 意味の分からない単語は、前後の文脈から推測する	<input type="radio"/>

:ピア・リーディングによって理解した読解方略
 :自分が意識した読解方略

明示的な読解方略指導とピア・リーディングを活用して、

的確に読む力の向上に役立てましょう😊

詳細は、総合教育センターWebサイト 長期研究員 研究報告(R6)をご覧ください。